

東京世田谷区下北沢駅、新宿からの小田急線と渋谷からの井の頭線が交差する町だ。空襲を受けなかったため、細い通りが縦横に交差し、駅前の闇市から発展したマーケットを中心に、低層の小店舗や飲食店が建ち並び、住宅地とも共存している。戦後から沿線の学生達の溜まり場ともなり、後に安藤組を立ち上げる安藤昇たち学生懇連隊もこの下北沢を拠点としていた。新宿や渋谷の盛り場にすぐ行ける便利さもあったからだ。オイラも通学沿線で、大学時代にはよく通った町だ。現在はライブハウスや小劇場が幾つもあって、音楽と演劇の町としても知られている。当然だが居酒屋やしゃれた飲み屋も多い。平日でも多くの若者達が訪れ、路地から路地へ徒歩で買い物をしたり遊んだりする、俗に下北沢文化といわれる、独特の若者文化が栄える町ともなっている。

その下北沢に町を南北に分断する道路計画と高層ビル計画が持ち上がった。駅前のマーケットを潰してロータリー化し、道路幅26mの「補助54号線」を東西に走らせようというのだ。昨年世田谷区は「下北沢駅周辺地区地区計画素案」を公表した。完成すれば町の構造が全く様変わりしてしまい、現在の下北沢らしさは全く失われることとなる。これに反対する住民、商店主、店のマスター等ばかりでなく、下北沢に縁のあるミュージシャ

3・21 まもれシモキタパレードのデモンストレーション ミュージシャン、アーティストも 立ち上がったSave the 下北沢

伊達政保
評論家

ン、映画演劇人、作家やアーティストたちが「Save the 下北沢」として運動に立ち上がった。

この間世田谷区は小田急線高架問題、住基ネット問題などで住民に対する高飛車な姿勢を示してきたが、今回もまたもや住民との話し合いをかたくなに拒み続け、この3月中に東京都に対し「補助54号線」の事業認可を求めている。この事業はとも小田急線高架と関係しているようなのだ。高架に反対し地下化を求めていた住民の運動にも関わらず、下北沢から先の高架は完成されてしまった。それまで明らかにされなかった下北沢駅の計画は地下化ということで、これは明らかに「補助54号線」の邪魔になる小田急線を、この地区だけ地下化するということなのだ。では何のための高架推進だったのか。行政の欺瞞性は明らかである。

3月21日「Save the 下北沢」主宰のまもれシモキタパレードが、行政に対するデモンストレーションとして行われた。一般的デモではない。駅前でのおおたか静流のミニライブから始まり、ライブハウスでの「波さ知らずwith志田歩」の決起ライブ、その後、聴衆、ミュージシャン、住民、支援者が一体となったパレードは、演奏を続けながら、沿道の若者をも加えて500人以上に膨れ上がっていった。バラエティに富んだ運動体だから出来たことだ。